

# クロスCAFÉ

今回のクロスCAFÉでは、熊本地震における災害活動支援のため、  
当院より派遣された医師、看護師へのインタビューを掲載いたします。

## 熊本地震！災害救護活動

医療社会事業課 看護師長 山野内博見

4月22日～28日の7日間、医師、看護師長、看護師、薬剤師、主事と日本赤十字社青森県支部事業推進課長の7名で構成された救護班の一員として熊本入りしました。インフラ等が不安定な中、自己完結型の準備をし、主に地域住民の公衆衛生、エコノミークラス症候群の予防、心のケアを中心に活動しました。東日本大震災の時の救護班として経験したことを振り返り、震災の恐ろしさを改めて感じました。



## 熊本赤十字病院への医師派遣

外科医師 佐々木秀策

5月7日～5月13日、熊本赤十字病院へ医師派遣の要請があり、活動して参りました。配属された部署は救急外来で12時間交代制でした。受診する患者は外傷を負った方から精神的な不安定によるリストカットをした方まで、多くの患者であふれていました。他の赤十字病院から派遣された医師と共に熊本の皆さまの力になればとの思いで活動し、あっという間の7日間でした。東日本大震災の時は研修医として岩手県の病院に勤務し、災害の現場も経験しましたが、このように全国の赤十字病院から医師が集まり活動するのは初めてだったので勉強になりました。

災害の時、私達が瞬時に活動できるよう日々から心身ともに心構えをしておくことが私の役割だと思っています。



## 病院支援へ

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 木村 紘到

佐々木医師とともに熊本赤十字病院へ看護師派遣として、病棟で活動して参りました。熊本赤十字病院の職員の半数が被災しており、車中泊をしながら勤務されている方々は特に疲労していました。とにかく今、自分に出来ることを精一杯やってきました。赤十字職員としていつかは災害の現場で役に立ちたいと思っていましたので、この経験をこれからの看護師業務や活動にも役立てていきたいと思っています。



飛行機の窓から見えた熊本市内の屋根にかかったブルーシートの青が目につき付いています。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

八戸赤十字病院地域医療連携課だより クロスCAFÉ  
編集・発行 / 八戸赤十字病院 地域医療連携課  
〒039-1104 青森県八戸市大字田面木字中明戸2  
Tel 0178-27-3111 (代表) Fax 0178-27-8080 (直通)  
URL <http://www.hachinohe.jrc.or.jp/>

